

9月定例会の一般質問から

公共交通ネットワーク構築に向けた 市民説明の今後の進め方は

問

本市の将来の都市像である「ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するには、公共交通ネットワークの構築が欠かせないものである。それには、長期的な視野に立ち、必要性や方向性を議論することにより、目指すべき公共交通の姿を、市民や関係者の皆さんに理解していただき、協力を得ることに取り組んでいくべきであると考えている。

このような中、市長は市民説明の準備を進めていくと表明されたが、準備の状況と、いつ頃からどのような内容で市民説明を進めていくのか伺う。

答

本市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」の実

現に向けては、まずは、まちづくりの考え方や公共交通のあり方などの将来ビジョンを共有することを目標とした市民説明を実施していきたいと考えている。

その準備状況については、国や県、交通事業者との協議を行うなど、実施に向けた準備を進めている。

また、市民説明の日程など今後の進め方については、年度内には、パンフレットを作成し、市内全世帯に配布するとともに、各地区市民センターなどにおいて、オープンハウスを開催し、多くの市民からご意見をいただいきたいと考えている。

※オープンハウス

展示内容を自由に見学したり、気軽に意見交換できる場。

産業廃棄物中間処理施設は 地域住民の生活に配慮すべき

問

平出工業団地の産業廃棄物中間処理施設建設問題について、次の3点を伺う。

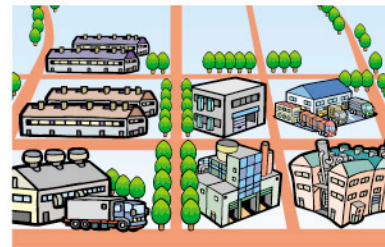
①産業廃棄物中間処理施設建設計画について、専門委員からの意見聴取が終了したようだが、どのような意見が集約されたのか。

②今後、市や県の都市計画審議会が開催されるが、専門委員の意見はどの程度反映されるか。

③住民と事業者の環境保全協定の締結について、行政としてどのように関わっていくのか。

答

①生活環境の保全について、適正な配慮がされているか、昨年8月から約1年間かけて、7名の専門委員から様々な意見を聴取してきた。騒音対策のための消音器や、停電時対策の非常用発電設備の設置等の意見があり、それ



らを反映して、事業者が計画を一部変更したことで、周辺地域の生活環境の保全について、より配慮された計画になったと考える。

②都市計画審議会では、施設位置に関する都市計画上の支障の有無について審議されるが、専門委員の意見については、他法令の審査状況として、結果報告していく。

③要綱見直しの趣旨を踏まえ、住民と事業者に対し環境保全協定の締結を積極的に働きかけ、より一層の相互理解と信頼関係の構築を促進していく。

子宮頸がん・乳がん検診 託児付きで受診率アップ

問

子宮頸がんは、ワクチン接種と検診でほぼ100%予防でき、細菌性髄膜炎は、小児用肺炎球菌とヒブの両ワクチンを接種することで8割を防ぐことができる」と報告されているが、23年度予算の中で、どのように対応していくのか。

また、女性のがん検診の受診率は、まだまだ低いとの調査結果が発表されたが、子宮頸がん、乳がん検診の無料クーポン券事業の拡充と、受診しやすい環境整備等、受診率アップに向けた見解を伺う。

答

子宮頸がん予防ワクチンやヒブワクチン等の任意接種は、現在、国で予防接種法の位置づけや公費負担のあり方などの検討がされているが、厚生労働省の23年度予算の概算要求において、

市町村が実施する子宮頸がん予防ワクチン事業に対し、初の国費助成が盛り込まれたことから、本市としては、国や県の動向を見据えながら適切に対応していく。

また、無料クーポンによる女性特有のがん検診推進事業は、現在、国で継続事業としていることから本市でも現行制度で実施していく。

受診率アップに向けては、これまで土、日の検診や、会場の地区拡大を図っており、今年度は受診券を一斉発送したほか、さらに子育て世代の女性を対象に託児付きの子宮頸がん・乳がん検診を新たに実施するなどした。今後も一層受診しやすい環境づくりに努めていく。

